

ヒアリング調査結果（第 2 期）【支援者向け】

調査対象者 こども・子育て支援を行っている事業者

調査実施方法 ヒアリング 各施設を訪問し、直接保護者に対してヒアリングを実施。

分類	施設種別	施設・法人名	実施日	地域	アンケート	ヒアリング
一時預かり	一時預かり事業者	かやの木保育園	7 月 8 日（月）	中部		●
	ファミリー・サポート・センター（提供会員）	提供会員	6 月 25 日（火）～ 7 月 5 日（金）	全域	●	
障害児・ 医療的ケア 児	児童発達・放課 後デイ事業者	一般社団法人和音 （ふわり）	6 月 6 日（木）	全域		●
支援が必要 な家庭	児童養護施設	晴香園 （ショートステイ、児 童家庭センター）	7 月 10 日（水）	全域		●
	主任児童委員	主任児童委員連絡 協議会	6 月 18 日（火）	全域		●
不登校児童 生徒支援	教育支援センタ ー	フレンドステーション エルズ・しんかわ	7 月 24 日（水）	全域		●
こどもの貧困	子ども食堂	子ども食堂ネットワー ク	7 月 11 日（木）	全域		●

ヒアリング項目

【共通質問】

- ・利用しているこどもの困り感としてどのようなことを感じますか。また、保護者の子育ての困り感としてどのようなことを感じますか。
- ・支援が必要かもしれないと感じたこどもや家庭に対して、何か行った工夫はありますか。
- ・地域の方に対して、どのような支援があると良いと思いますか。
- ・利用者と関わる際に、大切にされていることを教えてください。
- ・利用者と関わる際に、難しかった（難しい）点は何ですか。
- ・現在、連携をしている機関はありますか。関係機関と連携して行った支援のうち、最も効果的な支援が行えたと感じたケースについて教えてください。
- ・貴団体が現在活動している中で困っていることを教えてください。

【個別質問】

- ・活動の中で感じている、市の子育て施策の課題感は何ですか。
- ・活動を通して、地域で住民同士の交流は感じられますか。

一時預かり事業者

【利用者の困り感について】

- ・家事育児を1人でやっている家庭について、育児の相談相手がいない。
- ・こどもの発達状況について、インターネットなどで情報収集はできるが、他県などからの転入者については、周りに育児の経験豊富な人が少なく不安。

【利用者に関わる際に難しい点】

- ・要配慮のお子さんの受け入れについて、医療的ケアの必要が無ければ受け入れるものの、負担は大きい。
- ・人数の多少や、こどもの慣れ具合などが当日になるまで分からないため、クラス担任と異なる難しさがある。
- ・園がやるべき事と保護者の求めることにギャップが生じている。

【市の子育て施策の課題感】

- ・市内の一時保育施設の一覧表を作成し、時間・利用料金・受入可能な年齢及び人数が記載されていると尚良い。

ファミリー・サポート・センター提供会員

【利用者の困り感について】

- ・預けたい時に預け先がなかなか見つからない。
- ・急なこどもや親の体調不良や用事のときのこどもの見守りを、頼める人がいない。困った時に助けてと言えない孤立。
- ・夫婦共に就労している世帯が増え、学童から習い事の送迎や、保育園から療育への送迎が困難になっている。
- ・産後の産褥期に親の援助を受けられない世帯が増えている。
- ・発達の相談を出来る機会が少なくまた周知されていない。
- ・小学校や中学にいけないこどもが多く、保護者がとても苦労している。
- ・双子さんのいるご家庭で、大人1人で2人を遊ばせるのが大変そう。片方がどこかに行ってしまうたり泣いたり。面倒を見てくれる親が近くにいない方が多い。
- ・保護者がとにかく忙しすぎる（夜の帰りが遅い、朝の出勤が早い）ため、こどもにかけられる時間が少ない。
- ・頼れる人（特に身内）がいない。
- ・子育てのことについて気軽に話せるご近所の友人がいない。つながりが希薄。
- ・困っている、もしくは孤立していそうな人が、地域や周りに助けを求めない、求め方を知らないと感じ心配になります。

【利用者に関わる際に難しい点】

- ・しんどい家庭は複合的にしんどい。精神疾患、親の発達の課題、子の発達の課題、DV、ネグレクト、ステップファミリー、難病、障がい、経済的な困難、孤立、親族の援助を期待できないなどの困難が複合的に絡み合っている。それぞれの専門家が必要だが、そのコーディネートをするのが誰なのか全く分からない。
- ・忙しい人だと詳しい話が聞けない。面談の時間も取りにくい。
- ・仕事と捉えられると複雑なものがある。手助けの気持ちでしているのでお金を払えばいいんでしょという姿勢だと悲しくなる。

【市の子育て施策の課題感】

- ・一人親、共働き家庭のこども支援ニーズを掘り下げて、支援体制を強化すべきです。もっと、周りに知り合いの「おじいちゃん・おばちゃん」がいる町になればと思います。
- ・ファミリーサポートは市で行っているものですが、サポート側も時間をつくってサポートしていますので、時給を100円でも上げていただきたいと思います。また、徒歩で迎えの方にも何か手当はないでしょうか。暑い中、寒い中車が使えない方は徒歩でお迎えなり行っています。時間も車の方よりかかります。全体的に見直す時期なのではないかと思います。
- ・流山市の施策の中にやたらと「子持ち様」的思考があること。子育て世代の「やってもらって当たり前」の意識を変える施

策（ダメなものはダメ！）の意識の醸成）を、日々の住民対応の中から始めてほしい。流山市内には子育て世代だけでなく、シニアも DINKS も単身世帯もいるわけで、全員が住みやすい街にしないと、地域間の「助け合い」の精神、ひいてはサポートを提供する側の人間など生まれないと思う。

・乳幼児、未就学児、学童児と分断されているように感じます。大人から見たら、みんなこどもです。もう少し連携をしたらどうか感じます。特に中高生となると子育て施策を感じません。18 歳までの医療費助成は素晴らしいですが、未成年のこども全てを何かしら見守れるようにすると、今後の市の発展にもつながるのではないのでしょうか。自分が守られ育ったこどもは、その地域に戻るでしょうから長期的に考えても重要だと思います。

・ファミリーサポートについて、認知されるように、また、活動自体わかりやすく説明される場を持った方が良い。

児童発達・放課後デイ事業者

【流山市の現状について】

・市内の障害者支援を行う事業所がここ 5 年でかなり増えた。増えたことは良いが、選択肢が多く保護者も悩んでしまう。事業所側としても、事業所間での連携の取り方に悩む。

・最近では学童クラブと放課後等デイサービスの両方を運営している法人が増えている。

・保育園での医療的ケア児の受け入れについて、看護師を配置したからいいというものではない。呼吸器を付けている場合、看護師によって対応できる人が分かれる。呼吸器をつけているこどもは自分で外してしまう子もいる。看護師は保護者対応までは学んでいない。保護者は覚悟して施設に預けているため、受け入れ側も覚悟が必要である。

【障害児支援について】

・軽度の障害の場合、こちらで受け入れず学童クラブや支援級に戻す判断をすることもある。こどもに合った支援が必要。

・障害児のいる家庭に対しては、日中休めるような家族支援が重要である。土日外出できなかったり、きょうだい児の行事に参加できないことがあるため、こどもを預けて出れるような支援が大事。

ショートステイ

【利用者の困り感について】

・特に、ひとり親家庭において、仕事と育児の両立にあたり、育児疲れで預けるケースがある。また、こどもの落ち着きがなく、発達障害の傾向がある場合や、夜泣きがひどい場合に育児疲れとして利用がある。

・生活保護家庭で、疾病もある場合、周囲からのサポートがない。

・不登校のこどもや学校の行き渋りがある場合、保護者が仕事に行けなくなってしまう。その場合にもショートステイの利用がある。

・保護者によって、「自分は子育てができていない」と認識している人もおり、利用に繋がったり、支援への繋がりが難しい。

・ショートステイは、一般的にあまり認知されていないサービスである。他の施設との違いが分かりにくかったり、中には、ショートステイを通してこどもを保護してくれることを期待する保護者もいる。

・保護者によっては、「子育ては親がするもの」といった考え方の人もおり、周囲の助けを得られず、不適切な養育に繋がってしまう場合もある。

・最近では、高年齢児（小学校高学年、中学生など）の利用が増えている。保護者が育児をギブアップしてしまい、不適切な養育につながってしまっている。高年齢児は、ショートステイに預けられると、親から見放されてしまったと感じてしまう場合もある。低年齢児は愛着形成のための関りを重視するが、高年齢児は職員との関係性づくりや、意見表明ができる環境づくりが重要である。大人が耳を傾けてくれるという意識をもってもらえるようにしなければならない。

【市の子育て施策の課題感】

- ・ショートステイの受付をしていて、どこに相談したらいいのかわからないという方がいる。地域で子育てしていくことが重要である。
- ・里親ショートステイについては、ショートステイを利用するほどではない家庭に紹介している。里親のような決まった方との関係性を構築しておき、地域で予防的な利用につなぐことができたかと考えている。支援者として協力家庭を増やすことで、里親ショートステイ同士の繋がりを作り、ネットワークを構築する必要があると考える。そうしていくことで、みんなで子育て、地域で子育てに繋がると考える。

【団体での課題感】

- ・職員の人員が足りないと感じている。以前は夜間のショートステイは職員 1 名で対応していたが、2 名に増員した。夜間は特にこどもが不安定になりやすいことから、人手が必要である。

児童家庭支援センター

【利用者の困り感について】

- ・保護者から不登校に関する相談が多いほか、夫婦間の関係性に関する相談も多い。
- ・不登校については、夫婦間の関係性が悪く、こどもが関係性を取り持つような状態になってしまい、不登校に繋がったり、こどもの特性によって学校生活になじめず、不登校になってしまう場合もある。
- ・不登校の場合、生活が昼夜逆転してしまったり、暴言などに困っていることが多い。保護者としては、小学校のうちは学校に戻したいという思いが強く、それ以上の年齢だとフリースクールや通信制という選択肢がある。
- ・心理士による心理相談を実施しており、これに期待して利用される方も多い。

【市の子育て施策の課題感】

- ・乳幼児期の相談先は、保育園や児童発達支援センター、地域子育て支援センター、保健センターなどたくさんあるが、小学校に上がると少ないと感じている。
- ・小学校以上だと、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが配置されているが、相談内容によっては学校に原因があるのではなく、それ以外（家庭など）にある場合がある。
- ・こどもが私立の学校や高校に行ったら、より家庭との距離ができるため、こどもが思いもよらない問題を抱えることがある。最近ではこどもが知らないうちにオーバードーズをしていたという相談があった。
- ・学童期以上の資源が足りないと考える。不登校のこどものための居場所や、家庭にいてできないこどもの居場所が必要である。こどもによって、人とワイワイ過ごすことが好きな子や一人で過ごすことが好きな子がいるため、多様な場を用意することが必要。
- ・18 歳以上になると途端に支援が切れてしまう印象がある。若者支援の道筋がないと思う。
- ・ペアトレは、何か家庭内で問題が起きてから利用する方が多いが、早いうち気づききっかけとなればと思っている。他の家庭との交流の場が持てれば、自分のこどもとの状況の違いに早くから気づくことが出来ると思う。

【団体での課題感】

- ・人手不足。非常勤職員も含めて 9 名だが足りない。相談方法によっては相談員 2 名で対応することになるため、大変。県の補助金を元手に運営しているが、心理士の配置や相談件数をもとに算出されるため限界を感じる。
- ・指導委託として、児相が保護した後の指導の委託を請け負い、委託料を得ている。これは市町村も適用できるが、仕組みが整っておらずできていない。市からの指導委託として、市の訪問に心理士が助言をしたり、要対協のケースに関し協力できる。仕組み作りを進めていただきたい。

主任児童委員

【利用者の困り感について】

- ・地域によって差がある。家庭単位で子育てしている所と、ワンオペになっている家庭がある。
- ・子ども食堂のあつまれ西深井の森は、貧困家庭が多く参加し、お弁当をもらいに来ている。参加する家庭はいつも決まっている。子ども食堂に来ていないが心配な家庭は、学校から子ども食堂を紹介してもらい、来てもらうよう促している。継続的な参加に繋がらないこともある。
- ・東部は閉鎖的な印象がある。以前支援が必要そうな家庭に大丈夫かと声を掛けたが、大丈夫という回答だった。地域的に表に出したくないという方が多い。学校と主任児童委員との交流の機会が依然と比べ、少なくなったため、把握がしにくくなった。
- ・南部はあまり主任児童委員としての活動はあまりない。学校とのつながりは年 1 回の挨拶ぐらいである。困り感の確認が難しいと感じている。コロナ禍を経て、リモートワークの家庭が増えたが、以前より夫婦で子育てする家庭が増えたと感じている。家事も育児も家庭全体でやるといった印象。
- ・おおたかの森は何かイベントを実施しても、こどもの数が多すぎる。困り感を知りたくても多すぎてそこまでたどり着けない。
- ・中部は各クラスに 1 , 2 名ほど登校拒否をしているこどもがいる。ひきこもりにつながっている。こどもの人数が多く、なかなか支援が必要なこどもまでたどり着けない。
- ・以前、母親が男の人を作ってしまい、サッカークラブに参加するときにお弁当を持ってくることができないこどもがいた。その後、母親とは離れたが、父親が病気になってしまい、ヤングケアラーのような状態になってしまった。子ども食堂があると早く知らせることが出来たら、周りの人の声掛けもあり変わっていたかもしれない。
- ・グレーゾーンのこどもがおり、その状態を保護者が気づいていない場合がある。学生時代は友だちとうまくいかず、20 歳になって行き場がない場合がある。保護者に可能性を伝えても「うちの子をそういう扱いにした」と言われてしまう。こどもの困り感をどう保護者に伝えたらいいのか。
- ・学校は校長先生の方針によって違いがある。ある学校は、こどもたちは自由だから、遅れて登校してもいいとしているところもある。今は両親が共働きで家を早く出てしまい、こどもだけで鍵を開けて家を出ることができない家庭も多い。早く家を出て登校することになる。
- ・中部はこどもの人数が多く、現状把握が難しい。PTA がいないから保護者と学校の連携が取れていない。保護者が学校を利用するお客様になっており、学校が要望と苦情でパンクしている。

【市の子育て施策の課題感】

- ・不登校があまりにも多い。教室まで行けなくても、学校内のどこか図書室などに登校できるような環境があるといい。
- ・ボール遊びができない公園が多い。こどもの体力づくりに繋がらない。学校の校庭を開放することはできないのか。
- ・学童に行っていない子の放課後や夏休みの居場所がない。児童センターがあるが、人が多くてパンパンである。公民館の居場所事業が無くなってしまった。
- ・学童に通う子とそれ以外の子の交流ができない。放課後こども教室があればいいのに。以前地区社協で放課後こども教室の立ち上げについて話が挙がったが、難しく断念した。
- ・朝の時間にこどもを受け入れることが出来る場所がない。学校では先生の負担になる。

フレンドステーション

【流山市の現状について】

- ・全国的に不登校児童生徒数が増加しているが、本市における市内小中学生の不登校数も増加傾向にある。
- ・様々な理由で学校に登校することに困り感を持つ、市内の小中学生の居場所として、フレンドステーション エルズ、フレンドステーション しんかわの2カ所を設置している。
- ・フレンドステーションの利用を希望する市内の小中学生は年々増加傾向にある。
- ・近年は民間のフリースクール等、不登校児童生徒の居場所が増えている。市教育委員会においても、不登校児童生徒の多様な居場所について検討を進めている。

【不登校児童生徒支援について】

- ・フレンドステーションでは、こども自身が指導員と相談しながら、学習内容や活動内容を決めて生活を送っている。また、定期的に児童生徒や保護者と面談を行い、支援の方向性を決めている。また、スクールカウンセラーを配置しており、児童生徒や保護者とのカウンセリングを実施している。
- ・フレンドステーションを利用している児童生徒の在籍校と連携を図り、児童生徒の活動の様子について情報共有を行っている。
- ・「不登校はどのこどもにも起こりうる」という認識のもと、こどもや保護者が悩みを持った時に相談できる体制を充実させていくことが重要だと考える。

子ども食堂

【利用者の困り感について】

- ・困っている方へのアプローチの仕方が難しい。行政から住民のリストをもらう訳にもいかない。経済的に困っている方や、コミュニケーションの面で困っている方がいる。コミュニケーションの面で困っている方は、その気が無くても人を怒らせてしまうような方で、仕事がクビになってしまう方もおり、孤立に繋がっている。
- ・時間を守れない人もおり、こちらが食料を届けに行っても約束した時間に家にいないこともあった。そうした困り感を抱えている人こそ社会で困っているため、支援が必要である。
- ・支援者側としては、約束を守れないような人を支援するのは…という考えを持つ方もいる。また、一見して困っているように見えない方が参加することもあり、支援者側が抵抗感をもつ場合もあるが、実はその人は困っているということもある。
- ・生活保護を受けている方で計画的にお金を使うことができない人もいる。そうした方に対しては、支援者は受け入れて支援するしかない。支援者側も疲れてしまう。「支援してやってる」という考え方では支援は続かない。
- ・届けたい人にちゃんと支援が届いているのかモヤモヤすることがある。
- ・ただ、月1回の子ども食堂を通して、利用者がほっとできたり、普段こどもの世話に追われている人がゆっくりご飯を食べる場を提供している。地域交流の場にもなっている。子ども食堂は利用者名簿もないから、入りやすくフェードアウトしやすい。利用者のハードルが下がる。
- ・南流山や江戸川台の子ども食堂は、利用者をうまく誘って皿洗いなどの手伝いに引き入れている。そうすることで利用者の自己肯定感が高まったり、助ける側を体験することが出来る。

【市の子育て施策の課題感】

- ・児童扶養手当の案内と一緒に子ども食堂のチラシを入れるようなプッシュ型の周知は効果的であると思う。それに加えて、お住いの地域に応じた各子ども食堂のチラシを配布できるとより良いと思う。
- ・生活困窮者への支援は、経済的支援や現物給付があるとよい。
- ・子育てをしている時間は短い。子育て支援はスピード感が重要である。計画して数年後に実施では、今困っている人を支援できない。まずはやってみないと分からない。
- ・困っていることは今解決しなくてはいけない。問題が大きくなる前に解決しないといけない。